

ロマントピア天文台通信 9月号

発行・作成：星と森のロマントピアそま 天文台「銀河」 staff 山下

発行日：2023年9月1日

2023.9月

1	金	16.1		二百十日
2	土	17.1		
3	日	18.1		
4	月	19.1	休館	
5	火	20.1		
6	水	20.1	下弦	
7	木	22.1		
8	金	23.1		白露
9	土	24.1		
10	日	25.1		
11	月	26.1	休館	みち天例会
12	火	27.1		
13	水	28.1		
14	木	29.1		
15	金	30.1	新月	
16	土	1.4		こども天文
17	日	2.4		
18	月	3.4	敬老の日	
19	火	4.4	休館	金星が最大光度
20	水	5.4		海王星が衝
21	木	6.4		アンタレス食(観察会)
22	金	7.4		水星が西方最大離角
23	土	8.4	上弦	秋分 秋分の日
24	日	9.4		
25	月	10.4	休館	
26	火	11.4		
27	水	12.4		
28	木	13.4		
29	金	14.4	満月	中秋の名月(観察会)
30	土	15.4		

惑星の動き

水星	西方最大離角。明け方東の空。
金星	最大光度。明け方東の空。
火星	おとめ座を東に移動。観測難。
木星	おひつじ座を東に移動後、西へ。
土星	おひつじ座とおうし座の境界線付近。
天王星	西矩。真夜中過ぎ東の空。
海王星	海王星がうお座で衝(20日)。

〔今月のイベント〕

1) 土星が見ごろ

8月中旬辺りから天文台の望遠鏡で土星を確認できるようになってきました。肉眼では他の星と区別することは難しいですが望遠鏡で見ると一目瞭然です。土星の環を確認することができます。土星の環は毎年傾きを変え、来年にはさらに細くなって見えるでしょう。2025年には地球から見て環が真横を向くような位置関係となるために、見かけ上土星の環が消えてしまう「環の消失」が起こります。さらにその後は土星の南半球が見やすくなるのに伴って再び環が太くなっていき、2032年には反対の南側の面が一番広く見えるようになります。



スタッフが天文台の望遠鏡にカメラを取り付けて撮影した土星

2) 21日:アンタレス食

さそり座の1等星アンタレスが月に隠される「アンタレス食」が起こります。地球の周りを公転している月は、地上から見ると星空を背景に東へと移動しています。このとき月が背景にある天体を隠していく現象のことを、月による「星食」または「掩蔽(えんぺい)」といいます。アンタレス食が起こる時間は青森県では17時24分頃でおそらく肉眼で確認するのは難しいでしょう。ロマントピア天文台の大型反射式望遠鏡であれば確認することができるでしょう。

3) 29日:中秋の名月

中秋の名月とは旧暦での8月15日の夜に見える月のことを指します。今年中秋の名月は満月と同じ日ですが、旧暦の8月15日が必ずしも満月となるわけではないので中秋の名月と満月の日付がずれることはしばしば起こります。ロマントピア天文台の外に設置している



スタッフが天文台の望遠鏡とiPhone7を使用して撮影

望遠鏡ではお持ちのスマホで月の写真を撮ることができます。ご自分で撮影する場合は一人1分間を目安にし、他の方と交代しながら望遠鏡を使用しましょう。うまく撮影できない場合は天文台のスタッフにお声掛けください。

一財) 星と森のロマントピアそま天文台「銀河」

開館時間 13:00~22:00 (最終入館時刻 21:30)

休館日 月曜日※祝日の場合は翌平日(詳しくはお尋ねください)

入館料 大人(高校生以上)200円, こども(4歳以上)100円 (弘前市民, 白鳥座・満点ハウス宿泊者は無料)

お問合せ 天文台 ☎0172-84-2233 ✉romantopia.tenmondai@gmail.com

ホテル ☎0172-84-2288

天文台のホームページはこちらから



